

現代用語

2004

ENCYCLOPEDIA OF
CONTEMPORARY WORDS

創刊56年 since 1948

の

基礎知識

自由国民版 2004

別冊付録

くらしの理科
まるわかりブック

カラー解説特集

日本政治
変わったもの、変わっていないもの
アメリカは帝国なのか
ドル体制の変化とユーロ

北朝鮮の外交政策と「拉致問題」
ウイルスはなぜいま脅威なのか

特別読み物

地球は「大量絶滅期」に
突入したのか

日本新語・流行語大賞【全記録】

日本政治 変わつたもの 変わらないうもの

北海道大学教授
山口二郎



毎日新聞社

派閥崩壊

2003(平成15)年9月に自民党総裁選挙が行われ、小泉純一郎首相は橋本派を分裂に追い込むことで、圧勝した。そして、それに引き続く党、内閣の人事においても小泉首相は、安倍晋三の幹事長起用など、独自色を発揮し、派閥を単位とした従来の自民党の秩序が壊れていることを印象づけた。他方、野党の側では民主党と自由党の合併によって、非自民の受け皿がいちおう用意された。また、民主党は具体的な数値目標を含んだ政権構想の「マニフェスト」を公表し、自民党にも同様の政策を提示するよう迫っている。

これによって11月の衆議院総選挙は、戦後政治でほとんど初めて政権と政策の選択を真剣に問う選挙となりそのうである。

では、本当に日本の政治は変わるのだろうか。例えば、安倍晋三が自民党幹事長に就任したことが、本当に自民党の変化を意味するのだろうか。あるいは、民主党がさげんしている「マニフェスト」なるものは、本当に従来の選挙公約と違うのだろうか。新しい仕組みの導入や人気者の登用が政治を変えるといふ言説には、われわれは過去10年間裏切られてきた。まずは、日本の政治で何が変わっており、何が変わっていないかをみきわめる必要がある。

自民党の2ndルール

戦後政治を支えてきた自民党が変わったのかどうかを理解するためには、自民党の秩序やルールの重層的な構造を押さえておく必要がある。自民党の第1ルールは、政策や主義主張とは関係なしに、権力を維持すること、与党の地位に優先することを優先するといふものである。冷戦の時代、イデオロギーの対立が存在していた時代には、自由主義体制という護符がこうしたルールを正当化してくれた。そして、

第2ルールは当事者たちの満足を最優先して権力闘争、人事配置を行うというものである。国民の迷惑は関係

なしに、総理・総裁をしばしば入れ替え、一国の指導者にふさわしからぬ政治家を据えることがあったのも、派閥のバランスや当選回数によって無能な政治家を大臣に充てていたのも、自民党政治家の権力欲を最優先したことの結果であった。ここで注意しておかなければならないのは、第2ルールはあくまで第1ルールを前提としていたといふことである。

1990年代以降の政治の動乱のなかで、国民の政治を見る目はある意味で厳しくなった。政治家のための政治、すなわち国民不在の権力闘争や既得権へのしがみつきを国民は許さなくなつた。具体的な政策の中身について、国

【内閣以降の各内閣の比較】

内閣	首相就任時の年齢	閣僚の平均年齢	女性閣僚人数	民間出身者閣僚人数	少数当選回数者の閣僚人数 <small>(衆院当選回数未定)</small>
内閣 [1991.11~]	72	61.6	0	0	0
改造内閣 [1992.12~]	73	60.7	0	0	0
内閣 [1993. 8~]	55	59.4	3	2	6
内閣 [1994. 4~]	58	59.6	2	1	3
内閣 [1994. 6~]	70	61.8	1	0	3
改造内閣 [1995. 8~]	71	62.0	0	1	4
内閣 [1996. 1~]	58	61.3	1	1	1
橋本内閣 [1996.11~]	59	62.7	1	0	0
橋本改造内閣 [1997. 9~]	60	60.6	0	0	1
内閣 [1998. 7~]	61	60.4	1	1	1
改造 [1999. 1~]	61	60.1	1	1	1
第2次改造内閣 [1999.10~]	62	64.0	1	0	2
野 [2000. 4~]	62	63.7	1	1	0
森内閣 [2000. 7~]	62	66.0	2	2	0
森改造内閣 [2000.12~]	63	63.0	2	1	1
内閣 [2001. 4~]	59	61.5	5	3	4
改造内閣 [2002. 9~]	60	60.7	4	3	6
2次改造内閣 [2003. 9~]	61	59.3	3	2	5

民は必ずしもふみこんだ評価はできないが、人事については誰しも文句をつけられる。自民党が誰を総裁・総理に据えるか、さらに内閣のなかで誰を大臣に据えるかといった、かつては自民党の内部だけで決められた事柄について、国民の目を意識しなければすまなくなったのである。こうした変化は、2001(平成13)年4月の、不人気な森喜朗前首相の退陣と小泉首相の登場からすでに進行しており、今回の自民党総裁選挙はその延長線上にある。その意味で、自民党の第2ルールはくずれている。

しかし、第1ルールを守るために第2ルールを捨てるといふ決断ができるところに、自民党の自民党たるゆえんがある。権力の座を守るためには、小泉首相が好き勝手にほえることもがまんし、党や閣僚の人事について冷遇されることにも耐えるというのが、小泉首相を支持した「抵抗勢力」の論理である。1993年の細川政権のときに自民党が学んだ唯一の教訓は、自民党は野党ではありえないということである。与党であるためには主義主張などどうでもよいという機会主義は自民党に脈々と生きている。小泉首相は、選挙で自民党が敗北する危険をちらつかせることによって、抵抗勢力の戦意をくじいた。強力な野党の出現は、自

【自民・民主のマニフェスト比較】

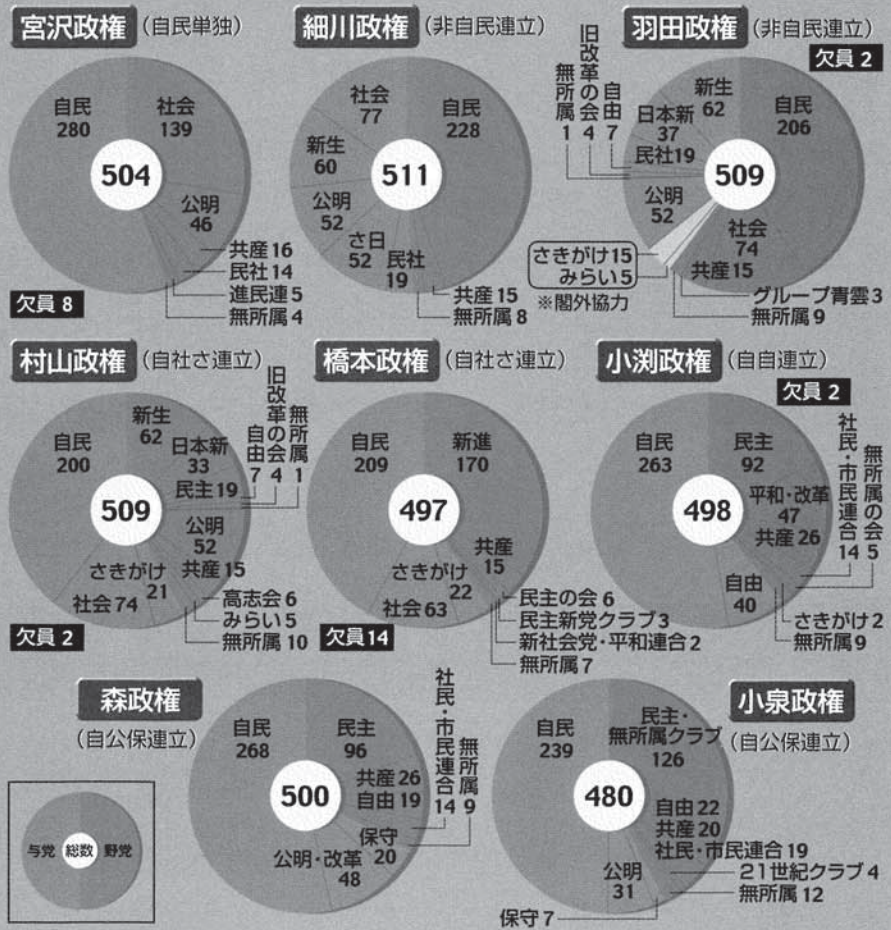
	自民党	民主党
経済・雇用政策	2006年度に名目GDP2%成長を達成。530万人雇用創出(2年以内に300万人以上)	失業率を4%台前半以下に。中小企業予算を大幅増
郵政・年金改革	07年4月より民営化との政府方針をふまえ04年秋に結論。国庫負担2分の1へ	郵便事業への民間参入を促進。郵貯・簡保資金は中小企業へ。国庫負担上げ。将来財源に消費税を充当
外交・防衛	日米同盟重視し自衛隊を海外派遣	自衛隊派遣は条件付きで検討
高速道路	05年度より公団民営化へ。有料制継続	大都市以外的高速道路を無料化。公団廃止
地方制度改革	06年度までに補助金約4兆円を廃止・縮減	06年度までに補助金約18兆円を全廃
天下り	天下りを制限	天下り禁止
憲法	05年に憲法改正草案まとめ。国民投票法成立へ	論憲から創憲へ
治安	5年で不法滞在外国人半減	警察官を4年で3万人以上増員

党内においては小泉首相の求心力を高めることに貢献した。小泉首相は、自民党政治家の権力本能をくすぐることによってリーダーシップを高めたのであり、彼もまた自民党の第1ルールを守っているのである。

試される野党の持久力

自民党の第1ルールが健在である限り、日本の政治は変わらない。2003(平成15)年秋の総選挙で小泉首相率いる自民党が勝利しても、多くの議員は小泉人気に便乗しただけで、小泉首相の改革をわがものとして推進するなどという結果にはならない。小泉首相が、過激な言説を唱える一方現実の政策立案作業を官僚に丸投げするという従来の手法を続け

【与党・野党の勢力の変遷】



るならば、04年夏の参議院選挙までは、小泉政権の安泰は続くであろう。しかし、改革と抵抗の狼芝居に国民が飽き、構造改革の成果が表れないならば、小泉首相の前途は暗いものになる。ここで重要になるのは、野党の持久力である。仮に秋の総選挙で政権交代を起こせなかった場合、民主党内では、小沢自由党との提携やマニフェスト戦術の失敗をめぐって内紛が起き、また

しても分裂の危機に直面するという可能性がある。しかし、民主党が短気を起こしては、自民党が喜ぶだけである。民主党には、政権交代のチャンス求めて政権構想を磨くという粘りが必要である。また、国民には、人事の目新しさに目を奪われるのではなく、政治家の威勢のよい言葉で満足するのではなく、政策を見据える眼力が求められている。

感染症のグローバル化と現代医学の限界

●2003年前半、世界中を震えあがらせた重症急性呼吸器症候群(SARS)に代表されるように、従前なら、局地的な病気で収まっていたものが、世界的な広がりを見せるようになった。これはエイズ以降続いている感染症の傾向だ。そうした状況に、「清潔で衛生的な」先進諸国の「感染症に勝利した」はずの現代医学が、十分に対応できているようにはみえない。むしろ、もろさの露呈がめだつ。

●また、インフルエンザの重症化や情報不足で見過ごされてきた間質性膀胱炎など、解決しなければならぬ問題は山積みされている。いまいちど、感染症に対する考え方を整理し直し、21世紀型の新たな総合感染症対策をうちだす時期がきているように思われる。

●カプセル型内視鏡や PET といった SF 的にさえ感じられる最新医療機器が開発される一方で、C 型肝炎の瀉血(しゃけつ)療法や胃瘻(いろう)造設術による栄養補給など、いったんは近代医学の主流から外れた古い医療技術が、新しい装い、新たな目的をもって再登場してきていることも興味深い。最先端部分は今後もどんどん進歩していきだろうが、現代医学の限界を見据えた見直しの動きも一方ではあるということだ。

●そうした状況を意識しつつ解説した。

医学

用語の解説

永井明

作家・医療ジャーナリスト

「ながい・あきら」1947年広島県生まれ。東京医科大学卒業。神奈川県立病院内科医長を経て、著述業。主な著書に「医療技術の最先端」(解体新書ネオ)ほかが医者をやめた理由、など多数。

◎2004年の新語

▼重症急性呼吸器症候群

(SARS/サーズ)

[Severe Acute Respiratory

Syndrome]

38度を超す高熱、咳や呼吸困難などを主症状とし、肺炎による死亡例も少なくない感染症。2003年2月下旬、ベトナム、香港などで患者が発生、さらに台湾、カナダ、ヨーロッパなど

世界各地に広がり、「謎の新型肺炎」としておそれられた。

02年11月すでに中国・広東省で大流行があったことが、後日判明。ここから全世界に広がった

ことが確認された。情報提供に積極的でなかった中国衛生当局は国際的な批判を浴びた。

この病気の原因はSARSウイルスとよばれ、感冒などを起こすコロナ・ウイルスの変種である可能性が高いと予測されている。潜伏期間は2〜7日で、死亡率は10%前後と高い。

WHO(世界保健機関)が03年3月12日に原因不明の肺炎が流行しているという警告を発してから100日の時点で患者数可能性例(含む)の累計は8465人、死者は801人となっている。

る。幸い、わが国での患者発生はこれまでのところ確認されてい

患者の発生報告は4月、5月をピークにはつきりと減少傾向を示し、今回の流行はほぼ終息した。しかしまだ再流行のおそれがあり、ワクチン、特效薬、迅速な検査法などの開発に向け、各国の研究機関が協力しているが、いましばらくの時間がかかりそうだ。

▼アウトブレイク

[outbreak]

2000年のウガンダでのエボラ出血熱、また03年春のSARSなど、危険な感染症が突如として広がることをいう。

交通機関の著しい発達によって、以前なら局所の風土病で終わったものが、ワールドワイドな広がりをもつ可能性が強まっている。WHOは、「世界アウトブレイク警戒・対応ネットワーク」を組織し、最新情報の収集と分析、もし発生してしまったときの対応などに備えている。またアウトブレイク情報として、CDC(アメリカ疾病管理・予防センター)の「Disease Outbreak News」もよく知られている。

▼スーパー・スプレッダー

医学

医療・健康

生命倫理

がん治療

性と生殖

健康

育児

心理学

こころと社会

薬と社会

対人関係の希薄さが まねく現代の心の病

●日本の心の病と強く結びついているのは、対人関係の希薄さである。情緒的な結びつきを失い、うつ病、統合失調症(精神分裂病)、不安障害といった精神障害が顕著に増えているものと思われる。

●都市部は、最も対人関係がないところである。会社でこそ1日中人と接するチャンスがあるにもかかわらず、その結びつきは年々薄くなっている。いわんや自分の家の周りの人々との共同体は崩壊しつつあるとあってよい。学校の生徒同士の結びつきも薄い。

●少子化によって過保護になり、子どもが母親と結びつく時間はいっそう増え、他人、友人と接する時間が少なくなっている。このことによって、子どもの分離不安が強くなり、不登校、いじめ、引きこもりといった問題が大きくなっているのである。

●さらに、店の人と話をしなくてもモノを手に入れることができるコンビニが現代の消費社会の典型的な場所となり、インターネットによるオークションや商品の注文は、人と人との心の交流をいっそう希薄にしている。

●もう一度共同体の形成、人と交わること、対人関係の学習、人の情緒がわかる共感性の育成、感情のコントロール能力の強化といったものが強く要求されると考えられる。

用語の解説 ネット自 殺と社会

町沢静夫

メンタルヘルス研究所所長
精神科医(医学博士)

〔まちざわ・しずお〕1945年新潟県生まれ。東京大学文学部心理学科、横浜市立大学医学部卒業。国立精神・神経センター精神保健研究所室長を経て、94年「町沢メンタルヘルス研究所」を開設。著書は「ポータルラインの心の病理」など多数。

◎2004年の新語

▼ネット自殺

このところ20代を中心に、若者たちがインターネットの自殺サイトで知り合い、一緒に死ぬ約束をし、一酸化炭素中毒、あるいは睡眠剤を使うなどの方法で自殺するという事件がたびたび報道されている。特に2002(平成14)～03年にかけて相次いで報道され、「ネット集団自殺」「出会い系自殺」などとよばれている。

このような若者たちにとって「死ぬ」ということ、そしてまた、まったく見知らぬ人と共に死ぬということに抵抗感はありません、独りで死ぬよりも誰かがいたほうが気が楽であるということ、このような自殺が盛んにみられるものである。

現代の若者たちは、日本の繁栄のなかでかえって生きる意味を失い、虚無感に襲われている。彼らは、幼児期に日本の経済発展の真つ只中におり、まったく苦勞なく生きてこられたのだが、会社に入ること、そして責任をもつこと、皆と一緒に働くということ、それから上司から叱られるということが、耐えら

れない苦痛となっているようである。そのために将来に絶望し、自殺を図るものである。死というものはきわめて軽くなり、死ぬということは「消える」という言葉とほぼ同じ意味になってしまっているのである。

▼モラルハラスメント

[moral harassment]

精神的な嫌がらせ、あるいは精神的暴力、精神的虐待といった意味。平気で人の心を傷つける人が存在し、そのことによって日頃われわれは苦しんでいることが多いものである。

子どもに対する精神的な虐待、あるいは企業において上司が部下を攻撃する、逆にまた、部下が上司を攻撃したり、同僚が同僚を攻撃するといった問題も含まれる。

モラルハラスメントの被害者は、几帳面で家庭や職場の秩序を愛し、周りの人々に献身的に尽くす人が多いといわれている。真面目で責任感が強く、仕事の面では成功することが多い人だという。しかし、罪悪感をもちやすく、抑うつ状態になりやすい傾向を示し、そのために人の支配に屈しやすく、精神的暴力でダメージを大きく受けやすいということにもなるのである。

医学

医療・健康

生命倫理

がん治療

性と生殖

健康

育児

心理学

こころと社会

薬と社会

格好悪くなるのをおそれる日本人

●引きこもりと長くつきあってきた富田富士也は「日本人のほとんどが引きこもりになった」という。新聞社では新人が政治や社会部を嫌い、他人との接触が少ない学芸部を志望する。技術系研究者は年齢を経て人事がからむ管理職になるとうつになる。すっきり、さっぱり、さわやかでなければ気がすまないお母さんは、理想どおりに育たないわが子をほっぽりだす。心を抱きしめなくてカラダを抱きしめようとするのがセクハラで、口説けない相手を追いつめるのがストーカー。

●すべてはコミュニケーション下手が原因だという。そして格好悪かろうと惨めだろうと、はいつくばってでも生きようとしなければコミュニケーション力は身に付かない。

●ブッシュ政権が国連をないがしろにしてイラク戦争へ突入したとき、少なくとも独仏露は、アメリカから嫌われても反対した。日本は嫌われ、格好悪くなるのをおそれて、対米追随。

●山崎正和が『社交する人間』を書いた。この茫漠たる地球社会と多国籍企業に拮抗し「個人に心の居場所を与える」のは、もうひとつの人間関係でなければならない。社交は育てるものだろう。最近、みな、つきあいが悪い。

社会風俗

若者用語

ワード
ウォッチング

ファッション

美容

子ども文化

マンガ文化

現代映画

広告批評

テレビ番組
批評

風俗・
流行

この1年の
人名

この1年の
事件

汚職・
経済事件

日本・新語
流行語大賞

社会風俗 用語の解説

神足裕司
コラムニスト

「こつたり・ゆつじ」1957年広島県生まれ。慶應義塾大学法学部卒。著書は『金魂巻の謎』『恨ミシラン』『おたく玉』『電撃編集作戦』『いきなりクルマ上手』など。

2003年のニッポン

▼オンリーワン

インターネット時代の価格競争にさらされた町工場が使われた「ほかにできない技術」という意味の合言葉が、榎原敬之作詞作曲でS.M.A.P.が歌う『世界に一つだけの花』で使われ大ヒットに。「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン」。これって慰め？

▼ぶちナシヨナリズム

2002(平成14)年開催の日韓サッカーW杯、日本語ブーム、内親王ご誕生など、ポップに愛国心を謳歌する若者を「愛国ごっこ」とよんだのが精神科医香山リカ。『ぶちナシヨナリズム症候群』(中公新書ラクレ)の余勢をかって福田和也と対談『愛国』問答(同)が企画されたが、「対談が喫茶店でコーヒー一杯とはなにごとか」と福田に怒られる。

▼輝き離婚

元アイドルで女優の林寛子と映画プロデューサーの黒沢久雄が離婚に際して交わしたやりとり。「離婚したらいまより輝けるのか」「輝くと思う」「じゃ、

いいよ」からきた。

夫に退職金が出るのを待って「濡れ落ち葉離婚」する妻が、「賞味期限切れ」を嫌って一步タイミングを早めた合理的選択。巷の一般主婦からは、お金があれば好き放題できていい、とやっかみの声。

▼GOOD LUCK!!

木村拓哉が主演したTBSの爽快大空パイロット・ドラマ。釣り船宿の息子が(父はいかりや長介)、反発しながらパイロットになり、一見地味な整備士、柴崎コウと結ばれたり、エンディングテーマ曲に山下達郎の『ライド・オン・タイム』をもつてくるなどツボを押さえた構成で平均視聴率30.6%は歴代4位。舞台になったANAでは、パイロットの機内アナウンスがキムタク声に。

▼元カレ

元の彼氏。破局した恋愛の再燃は、昔から焼けぼっくに火がついた、と古典的な言い回しがあったが、現在の恋愛はマルチ多層的。何人も恋人を取り替えていくうち、なんだ、最初のほうがよかつたじゃないの、という混乱が「元カレ」を日常語に。TBSが堂本剛と広末涼子でドラマ化したのが、倫理観が強

すぎ、暗くなつて失敗。

▼タトゥー

t. A. T. u. と表記する。ジュリアとレナ(共に18)、ロシア・モスクワ出身の少女デュオで、人目をばからず女の子同士でキスする過激さがウリ。2003(平成15)年6月来日したがプロモーションビデオのギリラ撮影を阻止すべく日本の警察が張込み。イベント、テレビ出演をドタキャンし反感をかうが、謝罪なし。でも、日本で150万枚のヒット。

▼くうーちゃん

消費者金融アイフルのCMに出演し大人気になったチワワ。細かくはロングコート・チワワ。2001(平成13)年5月生まれ。日本ペットモデル協会に登録し、600匹を集めたオーディションで勝ち残った。チワワブームのみならずペットブームの貢献犬だ。

▼ピフォアアフター

もともと美容薬・器具の広告に使われてきた言葉だが、ABC放送(テレビ朝系)『大改造!!劇的ピフォアアフター』でリフォアム用語に。松谷卓作曲の軽快なテーマ曲。建築家を「匠」とよぶものものしき、女性ナレーターの「なんということでしょう

!」という控えめな驚きなどが日常会話に。

▼女子十二楽坊

胡弓、琵琶、竹笛など中国古来の民族楽器でポップスを奏でる12人の女性ユニット。中国のモニンング娘。といわれる。

▼なんでだろう

ジャージ姿に身を包み、開いた手を顔の周りで振り回しながら歌うTetsu and Tomoの当たりギャグ。あらゆることが解説されるTVのなかで、日常生活の細かさに潜む矛盾をついたコントはオーソドックスともいえるが、ハイスピードの踊りがもたらす開放感に独自のもの。

▼はなわ

出身地を自虐的に歌った「佐賀県」で人気に。「クラスの半分以上が同じ床屋、残りの半分はお母さん」など細かいネタで地力はあったが、松井選手のヤンキース入りに合わせて、そのものまねでブレイク。ベース漫談などともいわれる。

▼星野

阪神タイガース星野仙一監督。背番号77。監督就任まで4シーズン連続最下位だった阪神を2003(平成15)年優勝へ導いた。「勝ちたいんやー」の言葉で選手を導き、7月8日には史

社会風俗

若者用語

ワード
ウォッチング
ファッション

美容

子ども文化

マンガ文化

現代映画

広告批評

テレビ番組批評

風俗・流行

この1年の人名

この1年の事件

汚職・経済事件

日本・新語・流行語大賞

上最速のマジック「49」を点灯させた。03年の日本シリーズは「内弁慶シリーズ」といわれ、阪神・ダイエーはそれぞれ本拠地で勝利を挙げ、4勝3敗でダイエーが日本一に。星野監督はこれを最後に勇退となった。

▼戒橋(えびすばし)

大阪ミナミの道頓堀川にかかる小さな橋。グリコの看板もあり歓楽街の中心で、別名「ナンパ橋」とも。18年ぶりに阪神の優勝が決まった2003(平成15)年9月15日、約5300人がここから「道頓堀ダイブ」した。死者1名。道路交通法違反で3名、公然わいせつ罪で4名が逮捕された。

▼松坂世代

西武の怪物、松坂大輔投手と同世代でスーパースターの卵が大卒を経て続々プロに。巨人軍の木佐貫洋、ダイエーの新垣渚・和田毅・杉内俊哉、阪神の藤川球児、横浜ベイスターズの古木克明など各選手だが、当の松坂投手は「一緒にしてくれるな経験が違う」とやや不満顔。

▼朝青龍の品格

大相撲夏場所旭鷲山と対戦したモンゴル出身力士朝青龍が、負けた腹いせに九重審判長をにらみ、「さがり」を振り回して

旭鷲山にぶつけた。めにあまる態度に、苦情電話、退場を求めファンが増え、朝青龍は一時休場。一方、土俵入り前に緊張感から機械的動きを繰り返す高見盛関が「ロボコップ力士」として人気に。

▼敵性メディア

巨人軍原辰徳監督の去就について、ぶらさがり取材をする記者へ、オーナー渡辺恒雄、通称ナベツネが毒づいた言葉。「敵性メディアの悪意ある報道」が監督との関係を悪化させたのか、読売攻撃をよんだのか。シリーズ中辞任会見した原監督はホームでの引退セレモニーなし。甲子園球場で星野仙一阪神監督が花束を渡し、「また勉強せいでよ。必ず戻ってこい」の言葉に涙。原監督自身の言葉は1995(平成7)年現役引退時と同じ「夢の続き」。

▼ボブ・サップ

[BOB SAPP]

格闘技はパワーであるという事実を、マンガのようにドラマチックに証明した格闘家。2002(平成14)年8月に行われたブラジリアン柔術のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ戦で、負けはしたが相手を壊した。またK-1最高のテクニシャン、アー

ネスト・ホーストをねじ伏せた。と、ここまでは格闘技ファンの世界だが、アメフト出身のインテリという万能の超人ぶりが爆発的人気をよぶ。「強い」ということの象徴。別名「野獣(Beast)」。入場曲は「ツアラトウストラはかく語りき」。

▼愛国心

教育基本法の改正に向けた中教審の答申に「学校教育で愛国心を育成すること」があった。2003(平成15)年3月の最終答申では「国を愛する心」とマイルドに改められた。国家至上主義に陥る危険性が新聞で指摘されたため。おりしもイラク戦争でアメリカでも「愛国心」が問われた。「祖国とは国語」講談社の著書があるお茶の水大学教授藤原正彦は、雑誌上でこの問題に「ナショナリズムとペイトリオシズム」の違いがわかっていないと分析した。

▼反戦プロモ

イラク戦争が始まる2003年3月前後に世界中で反戦デモのうねり。戦争勃発後初の週末22日には、ニューヨークで12万5000人、テネシー、ミネソタ、インディアナなど各州で1万人規模。首相が武力行使を支持したスペインのバルセロナで

比べて非常に浮き沈みの激しい出玉推移を描くという特徴をもつ。なお、業界用語で一般的な裏モノ全般を「Bモノ」、セット打法が仕込まれた極悪裏モノを「Cモノ」とよぶ。

皮膚感覚は時代の空気を先取りする

- 仕事を通じて、毎日たくさんの人の肌の手で触れる機会がある。皮膚感覚によるコミュニケーションは直感的で、多くの情報をやりとりできるように思う。人々がいま何を感、何を求めているのか。言葉に出さないことまで美容というソフトを介してキャッチすることができる。と同時に、言葉や理屈によるはたらきかけでは届かないところまで、美容を軸にするとたどりつける可能性がある。
- 現在、これまで取り残してきたことに、美容を軸にしたアプローチが始まっている。
- そのひとつが、死後の処置としてのメイク、エンゼルメイクだ。その人らしい最期のために、必要なノウハウや道具、化粧品は？遺族の癒しにつなげるには？。美容と医療が手を取り合って研究・実践を進めることで、少しずつ結果が現れてきている。
- また、人間関係の緊張度の高い現在の社会では、自分の外見に自信をもてない人が増えている。先天的または後天的に外見に障害をもつ場合は、より問題は複雑化する。
- これを緩和するには、外見と内面、両側からのアプローチが欠かせない。美容と医療、さらに心理学がコラボレートすることで、より全人的なケアが可能になる。幅広い知識と技術をもったセラピストの養成が急務だ。

美容用語の解説

小林照子

美・ファッション研究所代表
「フロムハンド」小林照子
メイクアップ・アカデミー校長

「こぼやし・てるこ」美容研究家。メイクアップアーティストの草分けとして、外見の美の創造を通じて心を癒し、健康に導く方法を追究する。著書は「小林照子のハッピーメイク」もつと輝く50歳からのメイク「からだ化粧」「知性メイクが女を変える」など。

社会風俗
若者用語
ワードウォッチング
ファッション

美容
子ども文化
マンガ文化
現代映画
広告批評
テレビ番組批評

ビューティ・サイエンス

▼タイト・ジャンクション／密着帯

[tight junction]

細胞間結合の一種。体液が器官の外側に漏れるのを防ぐ役割をする。従来の研究では、皮膚にはほとんど密着帯がないとされていた。2002(平成14)年京都大学の研究で、角質層の下にある顆粒層に密着帯が多くあり、保湿に役立っていることがわかった。今後は化粧品の開発にも密着帯の存在が反映されるだろう。

▼ムコ多糖類

皮膚の保水力を担うヒアルロン酸、デルマトン硫酸、コンドロイチン硫酸などの総称。なかでも中心成分のヒアルロン酸は、1g当たり60000gの水分を保持する力をもつ。加齢により減少することから、特にアンチエイジング(↓別項)化粧品に積極的にとりいれられている。

▼ハイドロキノ

[hydroquinone]

「美白の最終兵器」といわれるほど、高い効果をもつ美白剤。メラニン色素の合成を阻止する

風俗・流行

この1年の人名
この1年の事件
汚職・経済事件
日本・新語・流行語大賞

はたらきをもつ。従来は病院でしか処方できなかったが、薬事法改正で化粧品への配合が可能になった。

▼全成分表示義務

2001(平成13)年3月末から、化粧品の全成分の表示が厚生労働省により義務づけられた。従来は、化粧品に使用が認められた約2800の成分のうち、アレルギーなどを起こすおそれのある102成分だけに表示義務があった。肌のトラブルを訴える消費者が増え、化粧品の成分への関心が高まったこと、欧米では以前から同様の制度があることなどが改正の背景にある。消費者に公開される情報量が増えるのはよいことだが、メーカー側にはよりわかりやすい情報提示が求められる。また、規制緩和策として、一部を除き、成分に関する市販前の承認制度も事実上廃止に。これにより企業の自己責任による化粧品の製造、輸入が可能になる。一般消費者にとっては、海外の新製品がこれまでより早く手に入るようになる可能性も増えた。

それと同時に、モノを選ぶ際の消費者の自己責任も問われることになる。おびただしい情報を

読み解き、自分に合ったモノを見抜くセンスがますます必要になるだろう。

▼SPF/PA

[sun protection factor/protection grade of UVA]

SPFはサン・プロテクション・ファクターの略。波長が短く、シミの原因となる紫外線・UVBを主に防ぐ効果を表す。SPF10は、規定量の製品を使うことで、日焼けするまでの時間を10倍に伸ばせることを意味する。

エンゼルメイク

死後の処置として行うメイクのこと。病院では通常、看護師が行うことが多いが、ノウハウが確立していなかった。

そこで医療従事経験者や美容家、ジャーナリストなどが中心となり、「エンゼルメイク研究会」を発足させた。

約700人の看護師を対象としたアンケートでは、死後処置の際、39%が遺体に化粧を「必ずする」、35%が「ケースに応じて」と回答。「行わない」はわずか2%だった。その一方、73%が悩みをかかえていた。

「目や口が開いてしまう」「肌や唇の乾燥」などの技術に加え、「化粧品がありあわせのものしかなく、やりにくい」との声も。そこでメーカーやアーティストや化粧品メーカーとも連携し、より使いやすい化粧品開発やマニュアルづくりに取り組んでいる。モニター病院での実践活動では、「安らかなお顔に仕上げることができた」「遺族から感謝された」などの報告が出ており、今後の展開が注目される。

キーワード

メンテナンス

▼メガネふき洗顔

2003(平成15)年春ごろから、布製の眼鏡ふきを洗顔に使うのが流行中。超極細の繊維が洗顔をきめ細かく泡立て、優しくふき取ることで毛穴の汚れまで落とすという。

テレビ番組の紹介で話題になり、一時は眼鏡店から商品が消えたほど。その後洗顔用のものが商品化された。

▼ティートリー油

[tea tree oil]

精油のひとつ。ツーンとした香りが特徴。オーストラリアの先住民・アボリジニが古くから愛用してきた植物で、高い抗菌作用と抗炎症作用がある。最近では「花粉症に効くアロマ」として注目を集めている。お湯を張ったマグカップにたらすなどして蒸気を吸入することで、目や鼻、喉の不快感を和らげることができる。

▼メディカルアロマテラピー

[medical aromatherapy]

医師の管理のもと、精油を医薬品のように扱い、治療に役立て

るアロマテラピー。フランス、ベルギー、ドイツなどで行われている。ケモタイプといわれる純度が証明された精油を用いて、皮膚への塗布、内服なども行う。

▼爪のトラブル

誤った手入れで爪のトラブルが発生する。陥入爪(かんにゅう)そうは、爪の端が肉に突き刺さった状態。巻き爪は、爪の左右が極端に丸まった状態をいう。どちらも足の親指に多く、海外の研究では全体の1割がトラブルをかかえているとも。深爪が原因になるので、爪は短くしすぎないこと、角をえぐるように切らないことが予防に。治療は皮膚科や整形外科で受けられる。

▼アミノ酸化化粧品

飲料のヒットで一躍注目をあびたアミノ酸が、スキンケア化粧品にも登場。角質層の天然保湿因子の主成分はアミノ酸で、これを補うことで肌荒れなどのトラブル改善をねらう。

▼飲む化粧品

美肌サプリともいわれる。美肌効果の高いビタミンCやビタミンE、アミノ酸、ムコ多糖類(別項)などを配合したサプリメント。ドラッグストアなどで

は、スキンケア化粧品とサプリメントを組み合わせたブランドも登場している。

▼プチ整形

メスを使わず、短時間で施術・回復できるとうたう美容整形のこと。「メイク感覚できれいになれる」という気軽さでここ数年人気を集めている。ただ、「プチ」といっても医療行為には変わりがなく、リスクもともなう。まずは医療施設や医師、施術内容についてよく調べ、検討することが大切。

▼埋没法

特殊な糸をまぶたに通すことで二重まぶたを作る手術法。メスを使う「切開法」にくらべ、手術時間が短く、金額も安い。腫れまぶたなどまぶたの状態によつてはできないこともある。

▼ヒアルロン酸注入

額や眉間、目尻などのしわにヒアルロン酸を注入してめだたなくする方法。体内でしだいに分解、吸収され、効果は半年程度持続するといわれる。従来使われることが多かったコラーゲンに比べて、持続期間が長く、アレルギーの反応が少ないなどのメリットがある。最近では下まぶたの際に注入して、人工的に涙袋を作る方法も「勇心をくすぐ

社会風俗

若者用語

ワードウォッチング

ファッション

美容

子ども文化

マンガ文化

現代映画

広告批評

テレビ番組批評

風俗・流行

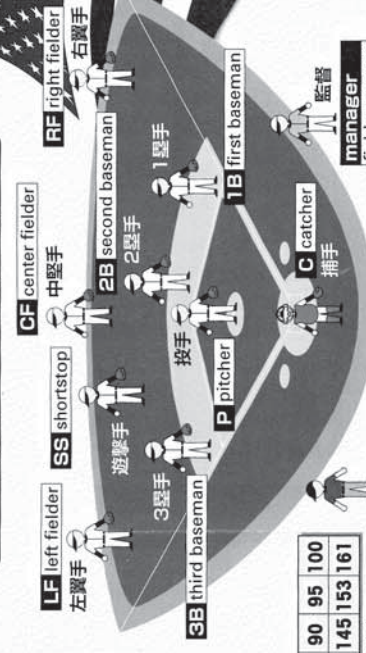
この1年の人名

この1年の事件

汚職・経済事件

日本・新語・流行語大賞

守備位置などの略語と英語



ランナー1塁
7回裏(▲=表、▼=裏)
1アウト、3ボール、1ストライク
球速90マイル

投手紹介の表示

34 ダレル・メイ

登板試合数	35
勝利	10-8
防御率	3.77
セーブ	0
投球回数	210
被安打	197
与四球	53
奪三振	115

打者紹介の表示

ロイヤルズヤンキース
7回裏ヤンキースの攻撃
ランナー1塁の場面

3ボール	1アウト
1ストライク	攻撃
球速90マイル	ランナー1塁

Hioki Matsui

AVG	.277
RB	106
HR	10
WALKS	54
STRIKE OUTS	118

マイル 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100
キロ 88 97 105 113 121 129 137 145 153 161

*キロは少数点以下四捨五入、1マイル=約1.609キロメートル

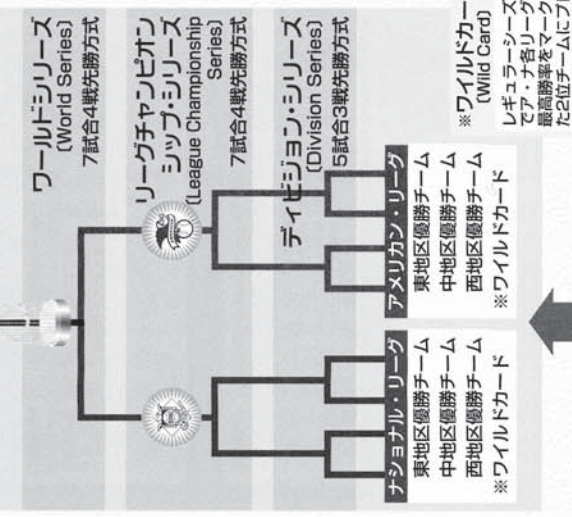
メジャー発のカタカナ語

- リードオフマン**
[lead-off man; lead-off hitter]
1番打者。トッパバッター。またはインニングの最初の打者。
- リーディングヒッター**
[leading hitter]
首位打者。規定打席に達した打者で最も打率が高い打者。
- グラランドスラム**
[grand slam]
満塁本塁打。歴代最多の満塁本塁打はルー・ゲーリック(ヤンキース)のもつ23本。
- スラッガー**
[slugger]
強打者。特に長距離打者のこと。
- テキサスリリーガー**
[Texas leaguer; Texas leaguer's hit]
ボテテヒット。昔テキサス出身の選手が内野手と外野手の間に落ちるヒットが多かったことから。
- グラウンダー**
[grounder]
コロ。地面に転がるボール。
- レーザービーム**
[laser beam]
正確な送球。
- グリーンライイト**
[green light]
監督がサインなどの指示を与えず、選手に任せること。
- ツインーム**
[two seam]
ボールが1回転することに見え難い目の数か二つになる球種。ストリートが微妙に沈みボールのしんを外して打ち取るボール。
- カッター**
[cutter; cut fastball]
スライダー系のボールで、速球と同じスピードながらわずかにホームベース付近で変化する球。ヤンキースの抑製のエース、マリナー・リベラが決め球とし、日本でも川上(中日)が有名。
- スプリッター**
[splitter; split-fingered fastball]
フォークボールの一種で、球速があり打者の手元で落ちるボール。
- サークルチェンジ**
[circle change]
チェンジアップの一種で、親指と人差し指で円(サークル)を作って置いて投げる。
- スピットボール**
[spitball]
投手の禁止事項のひとつで、ボールにつけて不規則な変化をさせる。
- クローザー**
[closer]
試合の最後を締めくくると投手。抑え投手。
- セットアップマン**
[setup man]
試合終盤に、抑え投手につなぐ役割を担う救援投手。
- DL**
[Disabled List]
故障者リスト。けがや病気のため試合に出場できない選手をロースターに列したまま登録するリスト。15日間と60日間があり、登録期間中に試合には出場できないが、代わってマイナーから選手を補充することが可能。
- ビッグユニット**
[Big Unit]
大リーグを代表する左腕ランディ・ジョンソン投手(ダイヤモンドバックス)の愛称。208cmの身長から「大きな物体」とつけられた。
- サブウェイシリーズ**
[Subway Series]
ニューヨークを本拠地とするヤンキースとメッツの対戦カードの別称。ヤンキースとジャムのあるブロンクスとシエイ・スタジアムのクワイーンズに地下鉄で行き来できることからよばれるようになった。
- インターリーグ**
[interleague]
レギュレーション中にア・リーグとナ・リーグのチームが対戦する交流試合。1997年から始まる。
- スプリット・スクワッド**
[split squad]
オープン戦で多くの選手に出場機会を与え、ためにチームを2組に分けて試合をする。こと。
- スプリングトレーニング**
[Spring training]
2月中旬から開演まで行われるキャンプ。オープン戦。フロリダ州でのオープン戦は「グレイプフルーツリーグ」、アリゾナ州は「カクタス(サボテン)リーグ」とよばれる。
- ロースター**
[roster]
試合に出場できる登録枠。原則的にベンチ入りは25人枠(25-Man Roster)、故障者リストと25人枠以外の40人枠(40-Man Roster)があり、9月からはベンチ入り40人に拡大される。
- エクステンション**
[extension]
球団拡張。1961年に初の拡張が行われ、ロサンゼルス(現アナハイム)、エンセラス、2代目ワシントン・セネターズ(現テキサス・レンジャーズ)がア・リーグに加入。その後増え続け、最近では98年のアリゾナ・ダイヤモンドバックス、タンパベイ・デビルレイズが加わり30球団に。
- ボールパーク**
[ballpark]
野球場の通称。現存では1912年に建てられたレッドソックスの本拠地フェンウェイ・パークが最古。
- クリーンアップ**
[cleanup man]
4番打者。日本のクリーンアップリリオ(3~5番打者)とは異なる。
- グリーンモンスター**
[Green Monster]
レッドソックスの本拠地フェンウェイ・パークの高さ約11mの左翼フェンスの愛称。
- スウィープ**
[sweep]
同一カードの連戦に全勝すること。相手を一掃する意味。
- スプリット・シーズン**
[split season]
ア・ナ高リーグ計30チームがそれぞれ地区優勝をかけて162試合戦う。高リーグ各地区の優勝チームとワイルドカード**がプレーオフへ進出

ワールドチャンピオンへの道のり

ポストシーズン(Post Season)
プレーオフ(Play-off)

ワールドチャンピオン



ワールドシリーズ
(World Series)
7試合4戦先勝方式

リーグチャンピオン
シップシリーズ
(League Championship Series)
7試合4戦先勝方式

ディビジョンシリーズ
(Division Series)
5試合3戦先勝方式

アメリカンリーグ
東地区優勝チーム
中地区優勝チーム
西地区優勝チーム
※ワイルドカード

ナショナルリーグ
東地区優勝チーム
中地区優勝チーム
西地区優勝チーム
※ワイルドカード

ワイルドカード
(Wild Card)
レギュレーション
で各リーグで
最高勝率をマーク
した2位チームにプ
レイオフ出場権が与
えられること

メジャーリーグベースボール

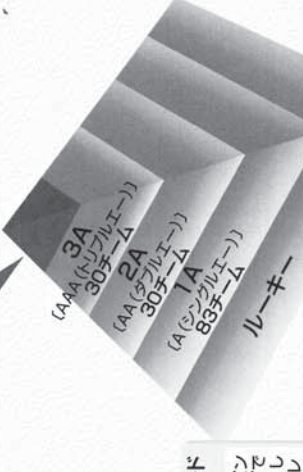
観戦入門

プロ野球経営評論家 坂井保之

2003年の大リーグは、ワールドシリーズでワイルドカードから勝ち進んだマリナーズが松井秀喜外野手が所属する名門球団のヤンキースを連覇4勝2敗で下し、6年ぶり2度めの「世界一」に輝き、幕を閉じた。日本から海を渡った松井の活躍はもちろん、イチロー(マリナーズ)、野茂(ドジャース)らの活躍などによって日本でもテレビ、新聞などで大リーグの情報も豊富になり、ますますお茶の間にも身近になったメジャーリーグベースボール。ここでは全30球団のチーム紹介や基礎知識を紹介する。

メジャーリーグベースボール
(Major League Baseball)

アメリカンリーグ (American League)	ナショナルリーグ (National League)
東地区5、中地区5、 西地区4の計14チーム	東地区5、中地区6、 西地区5の計16チーム



マイナーリーグ
(Minor League)

メジャーの下部組織。
3A(ルーキー)の4段階に分かれる。
180以上のチームが所属

**メジャーリーグと
マイナーリーグ**